

国連人道問題局 広島に拠点建設

県が構想 AMDAと連携

広島県は二十日、アジア太平洋地域の災害被災地に援助物資を送る国連人道問題局（DHA）の拠点を同県本郷町の広島空港近くに建設する構想を明らかにした。医薬品や食糧の備蓄基地を置き、世界各地で医療救援活動を繰り広げているAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）と連携、医師やボランティアとともに物資を被災国に航空機で送り届ける。

二〇〇一年の滑走路三千メートルに合わせ、県が設置する防災拠点施設内に設ける。テントや毛布、発電機を置くほか、国内で不要になったミシン、自転車、スポーツ用具なども再利用して途上国の支援に活用。さらに、インターネットで海外の災害や緊急援助に関する情報を収集、物資と人員を空路輸送する。

DHAはジュネーブとニューヨークに事務所があるが、備蓄基地はイタリア・ピアサの国際空港だけで、アジアの拠点については計画している。